

令和6年度 第1回 温海地域振興懇談会 会議録概要

○期 日	令和6年9月25日（水） 午後1時30分～午後3時50分
○会 場	鶴岡市温海庁舎 6階大会議室
○出席者	五十嵐收一会長、佐藤静夫委員、飯塚厚司委員、三浦英喜委員、 佐藤容介委員、本間健一委員、佐々木真人委員、五十嵐美智委員 片岡正孝委員、野尻晶委員、佐藤俊介委員、五十嵐明美（12名）
欠席者	佐藤昌幸委員、五十嵐晴美（2名）
市側出席者	市長 【企画部】上野部長、菅原地域振興課長、渡部主査 【温海庁舎】 五十嵐支所長 （総務企画課）伊藤総務企画課長、佐藤課長補佐(兼)地域まちづくり企画調 整主査、奥田主査、本間まちづくり事業推進員 （市民福祉課）剣持市民福祉課長、川村課長補佐 （産業建設課）本間産業建設課長、東海林課長補佐
○公開・非公開の別	公開
○傍聴者の人数	1名
○次 第	1. 開 会 2. あいさつ 五十嵐会長 皆川市長 3. 報 告 （1）令和6年7月25日の大雨に係る温海地域の被害状況について 報告資料 1 （2）令和5年度温海地域振興懇談会で出された意見への対応について 報告資料 2 4. 意見交換等 （1）温海地域主要事業（地域まちづくり未来事業等）について 意見交換資料 1 （2）その他 5. その他

6. 閉 会

○委員発言の概要

3. 報 告

(1) 令和6年7月25日の大雨に係る温海地域の被害状況について
(質問意見なし)

(2) 令和5年度温海地域振興懇談会で出された意見への対応について

F委員

・あつみ温泉川端の休憩施設やベンチの塗装を令和6年度予算でやると回答いただいたがまだ出来ていないようである。

・温海川河畔の桜並木を山新の最上川さくら回廊2018と2020で2回植栽工事をやっている。植栽を継続してやると伺っていたが、2024は着手していない。桜の成長に差があり、2020の萬国屋の山側に植えたものは日陰なので成長が遅い。令和7年3月には終わると記載しているのでお聞きしたい。

本間産業建設課長

・今年度の滞留拠点の整備は、これから塗替えを地元の方にお願ひしながら一緒にやっていく予定である。

・桜並木については、業者に維持管理をお願いしており、古木で交通に障害があるものは植栽を進めながら管理している。今現在、元気な桜の木は生かしつつ、古木でどうしても危険なものや、これから花が綺麗に咲かない桜の木については植栽を続けていくという考え方である。何か気づいた点があれば、教えていただきたい。

D委員

・滞留拠点整備について、あつみ観光協会温泉支部で、まち活（市民まちづくり活動促進事業）の補助金を活用して塗料、備品等を購入し温泉支部で塗装すると話し合いをしていた。しかし、予算があまり多く取れず、購入できるのは、塗料の一斗缶1つとペンキ、刷毛ぐらいだった。10月半ばを目途に温泉支部数人で休憩施設を1～2か所塗装する予定である。

・温泉支部とは別の団体が高压洗浄機を使って休憩施設を洗浄しているが、手の行き届かないところも多々あるので産業建設課と相談しながら綺麗にしていきたい。

B委員

・小ロット農産物生産振興事業ということであつみ旬菜会を応援していることは非常にありがたいが、実際に道の駅の産直に出ている農産物は少ない。提案だが、商売でなく広い面積で家庭菜園をやっている方からも出してもらうなど、少ない農産品を集める方法を検討してはどうか。

本間産業建設課長

・会員の増加や流通のやり方を一緒になって検討していきたいと思うのでご協

力をお願いしたい。

五十嵐支所長

・9月初めに新道の駅の運営事業者が、あつみ旬菜会の会員や新道の駅への出品希望者に説明会を開催している。大変多くの方々が出席しており、地域の方々がとても期待していると肌で感じた。素晴らしい農作物を新道の駅で紹介していけるよう調整してまいりたい。

E委員

・宮名集落にも以前は老人クラブがあったが、リーダーになる方がおらず解散となった。その事により、老人クラブで抱えている問題等が、民生児童委員にも相談されるようになった。地域のリーダー的な人材の育成について、今後考えていることはあるか。

剣持市民福祉課長

・宮名集落について、老人クラブ等の高齢者組織がないことは確認している。今年度、地域包括支援センターと市民福祉課で、宮名集落へお茶のみ訪問を行った。気軽に集まれるような形で公民館へ訪問している。

・温海地域では、宮名地域の他、10集落程同じような地域があり、積極的に団体組織の確立を目指すのではなく、あくまでも引きこもり予防の取組として、集落に入っていきたいと考えている。

・老人クラブの代表者の育成については、問題も多く様々な課題がある。集落それぞれ事情が違うので、集落ごとに皆様から意見を伺いながら、対応していく。行政が、地域のリーダー的な人材を育成することは、難しいと思うが、集落と一緒に進めていきたい。

B委員

・介護施設やデイサービスに行っている方なども老人クラブに勧誘し入れるとか、手を結ぶような形で考えていけないか。国の政策で、高齢まで働く人が増えている。働いている人が、老人クラブに入り活動するのは難しいと思う。活動の大半がボランティア活動かと思うが、デイサービス等に通っている人などが、地域の老人として一緒に活動できる方向性を探るべきではないか。退職してゆっくりしたくても、頼まれて働きに行く場合がある。つながりや連携など考える必要があるのではないか。

皆川市長

・地域包括ケアとは、デイサービスなどに行っている方も、地域活動に参加し、介護度が高くなっていくのを防いでいこうという考え方。

・老人クラブの活動が停滞してしまったところは、他の地域にもある。今後、高齢者の交流の場をどのように作り、高齢者の健康維持を図っていくか、老人クラブの活動も含めてもう一度整理をしたいと思う。健康福祉部地域包括ケア推進課と庁舎が連携のうえ、介護度が高くなるのをいかに防ぐか、民生児童委員とも連携し取り組んでいきたい。

F 委員

・温海地域は、人口が 6,100 人、そのうち 65 歳以上が約 3,049 人、高齢化率が 50 パーセントを超えている。老人クラブに加盟している会員数は 380 人。山五十川集落の会員数は 100 名を超えているが、湯温海や温海など大きい集落でも会員数は 30 人くらいである。湯温海、温海は、女性会員がほとんどで、男性会員が数名と少ない。会長のなり手がおらず、交代できないところもある

・温海温泉クラブの中で百歳体操を毎週火曜日行っており、リハビリも兼ねて参加してもらい、ワナゲ等をやったりしている。人とのつながりが持てるサロン活動もいいかなと思っている。

皆川市長

・健康福祉部では、これまで実施してきた福祉体育祭なども内容の見直しをしている。老人クラブの皆様も会員が多くいた頃と同じように事業をやるのは、なかなか大変だと思うので、できるだけ参加しやすいように活動の見直しなどを行っていく必要がある。健康福祉部と地域庁舎で相談しながら連携してまいりたい。

G 委員

・地域産業を盛り立てていく計画の中に、地域の中で、子供が家族と一緒に遊べる場所、皆がくつろげる場所の整備を入れていただきたい。地域イベントに家族で行ってみようなどと地域で楽しめる機会を増やすことにつながるからである。今、子供たちは、家族でのお出掛けは、内陸の無料のあそび施設やイオンモール三川等に行っているようだ。小さい頃から、地域産業に目を向け、子供なりに温海の良さを感じ取れるような環境があると、将来の地域産業の活性化に結び付いていくと考える。

五十嵐支所長

・新しい道の駅は、地域の農業、漁業を振興するという役割を持っており、観光振興にもつなげ温海地域の産業を底上げするための起爆剤にしたいと考えている。新道の駅の運営事業者が決まり、施設的设计段階ではあるが、子供の遊びを作る計画がある。新しい道の駅に行くと大人がここでしか買えない温海地域の物産を手に入れることができ、子供は新しい遊び場で遊ぶという大人も子供も楽しめる施設にしたいと考えている。地域産業活性化の一つの手段として新道の駅があるのかと思う。

4. 意見交換等

(1) 温海地域主要事業（地域まちづくり未来事業等）について

C 委員

No 4 道の駅あつみ移転整備事業について

・新道の駅に向けた取組は結構進んでいるようだが、現在の道の駅しゃりんの建物、土地の利活用についても、そろそろ具体的な計画を考えてほしい。

五十嵐支所長	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の道の駅しゃりんの土地は市の所有であり、建物の物産館から早磯の部分はクアポリス温海、情報館・24時間トイレは国土交通省と所有者が分かれている。クアポリス温海は新道の駅の開業に伴い解散、清算するという方針をすでに決定している。土地を所有している鶴岡市が主体となりクアポリス温海、国土交通省と調整を取り、地元の皆さんのご意見をお聞きし跡地の利活用の在り方を検討していく。
C委員	<p>意見交換資料1について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に達成度が示されているが、自己評価が甘いのではないか。目標に対し実績を何パーセント達成したなど数値で表したうえで、厳しく評価し、次年度の計画をよりよいものにしてほしい。
五十嵐支所長	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価を辛めに、よく考えてみることも必要なのかもしれない。数値目標は、立てられるものと立てにくいものがあるが、立てられるものは客観的に評価していく。
A委員	<p>No21 森林環境教育推進事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業の振興として森林組合で9月28日に市と共催でサラリーマン林太郎を開催する。今年度新しく、グーグルアースを使い自分の土地の場所を明らかにする取組を行う予定である。総理大臣賞を受賞した大江町の取組をまねてやるものだが、都会から帰ってきて自分の土地がわからない人たちから自分の土地に興味をもってもらいたいと考えている。来年度は、このような取組を定期的で開催していきたいので、市と共催で森林環境贈与税を使いながらやっていけないか。
本間産業建設課長	<ul style="list-style-type: none"> ・サラリーマン林太郎は次年度も継続し、今年度からの新たな取組についても引き続き協力しながら進めて参りたい。
K委員	<p>No.30 塵芥収集事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別が難しくなり、一人暮らしの男性から「分別の仕方がわからなく、自分が出したゴミが収集されないと、出すのが億劫になりゴミを溜めてしまい困っている。」と聞いた。ゴミの分別を理解してもらうために、運動会の種目に取り入れたり、老人クラブの活動でゴミの分別の勉強会をすることも考えられるのではないか。
剣持市民福祉課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別方法について、全市統一した一覧表を作成し全戸配布しているが、分別について、電話での問い合わせが多くある。迷ったときには、遠慮なく問合せいただければと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・分別の理解を深めてもらうために、行政でも機会を捉え、出前講座などを実施していく。9月28日(土)温海ふれあいセンターで行われる「あつみ健康と福祉のつどい」において、間違いやすいゴミの分別についての展示を行い、説明をする機会も設けるので、ぜひ参加いただきたい。
I 委員	<p>No.6 温海地域若者ネットワーク創出事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月に温海地域の若者を対象に地域巡り交流するとあるが、9月29日(日)に開催する移住者交流とは別のイベントか。
伊藤総務企画課長	<ul style="list-style-type: none"> ・別の事業である。移住者交流会は、移住された方が温海地域を選んだポイントなどを把握するために企画したもの。
I 委員	<p>No.7 温海地域家族まるごと移住体験事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終的な目標は移住や二地域居住ではないか。参加家族から来てもらうことが目標になっているのではないか。 ・参加家族へのフォローはどうしているのか。移住関係のサポートとして資料の配布など行っているのか。参加された家族で移住を考えるという意思表示はあったか。 ・小学生留学について、具体的にどことやるのか決まっているか。 ・素晴らしい取組なので、市のホームページだけでなく、SNS等を活用し県内外の方々へどんどんPRしてほしい。
伊藤総務企画課長	<ul style="list-style-type: none"> ・参加された家族のアンケートから、移住を検討している方は少ないが、移住を考えている方へのフォローも考えていく。 ・昨年度、参加された家族で、今年プライベートで来られた家族もいる。今後もリピーターを増やすとともにそのフォローに取り組む。 ・小学生留学については、今年度、保育園留学に参加されたお子さんが、来年度小学生になるが、小学校での受入が可能かということがある。学校教育課から小学生の体験受入は実績もあり可能と聞いており、具体的に検討を進めている。 ・情報発信については、SNS等を活用し積極的に取り組んでいく。
I 委員	<p>No.10 温海地域体験旅行推進事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行の受入れで、今後置賜、仙台市内へ営業活動していくとあるが、地域を選定した理由は。
本間産業建設課長	<ul style="list-style-type: none"> ・置賜方面は、県内において、これまで教育旅行の受入れ実績のない地域であ

り、仙台市内は、毎年、宮城教育大学附属中学校を受け入れており、ここを足掛かりとして仙台方面からの学校を増やしていきたいことから選定したものの。

I 委員

No.28 温海地域自然環境を生かした教育環境整備による定住促進事業について
・事業の情報発信について、市ホームページ以外で何かやっているか。市ホームページが 2024 年 3 月から更新されていない。一般の方やこれから子育てする世代へ向けて伝わるような情報発信を検討していただきたい。

伊藤総務企画課長

・この取組は、先進事例と聞いており、全国的なセミナーの場で温海地域の取組を発表出来る場を探しているところ。市ホームページ以外でも情報発信について検討中である。

I 委員

No.32 放課後児童対策事業について
・資料中に小学生が実施する iPad による家庭学習への対応と記載あるが、小学生が使用するタブレットは Windows のノートパソコン型のタブレットではないか。

剣持市民福祉課長

・資料に記載の「iPad」を「タブレット」と記載すべきだった。

五十嵐収一会長

No. 7 温海地域家族まるごと移住体験事業について
・温海中学校も生徒の数が減り、団体競技の部活動が成り立たなくなってきている。他の学校と一緒に取り組むには、距離があるため難しい。移住対策や中学生の部活動対策として、中学生留学もぜひ検討してほしい。

D 委員

No.8 温海地域教育環境充実事業について
・地域おこし協力隊の鈴木さんが自習室開放に取り組んでいただいたことは大変有難い。学ぶ側も教える大学生にとってもよい取組である。地域おこし協力隊員の任期終了後も、ぜひ取組を続けてほしい。地域の子どもは少ないが、子どもたちのやる気を伸ばし未来塾の充実を図ってほしい。

伊藤総務企画課長

・地域おこし協力隊の鈴木さんは、地域と子ども・若者のつながりを意識し頑張っている。未来塾にも関わっていただいております。鈴木さんの任期終了後も、レベルを落とさず継続していきたいと考えている。人員体制については、これから検討する。

E 委員

歴史・文化を生かした取組について
・人口減少によって、地域の祭りの継承が難しくなっている。戸沢の花胡蝶歌舞伎もやめたと聞いたが、市として、地域の歴史・文化を映像として残し、交

流学習に役立てていく等の考えはあるか。

伊藤総務企画課長

・戸沢の花胡蝶歌舞伎は一旦休止し、いつでも復活できるように映像として残している。浜中集落のケヤキキョウダイについては、文化庁が記録に残す取組をしている。地域の歴史・文化を記録に残すことは重要と認識している。

K委員

No.26 地域学校協働活動推進事業について

・中学3年生を対象とした未来塾はよい取組。取組がスタートした時より生徒の人数は少なくなったが、先生の他に慶應義塾大学の大学院生や大学生がサポートに入っており、1対1で教えて貰えるなど子供たちは充実しているようだ。
・昨年度までは会場の温海ふれあいセンターまでバス送迎があったが、今年度は各家庭の送迎になっている。

伊藤総務企画課長

・昨年度までは、土曜日にスクールバスが運行しており、学校から温海ふれあいセンターの送迎は市バスで対応していた。部活動の地域移行が進むにつれ、今年度から土曜日のスクールバス運行がなくなったため、会場までの送迎を各家庭にお願いしている。子どもたちの通塾に係る移動手段は課題と認識しているが、同じような取組を行っている、庄内町や朝日地域でも送迎は各家庭が行っている。行政としてどこまでサポートできるか検討中である。

I委員

・親の都合で塾に行きたくても行けないという声を聞き、地域格差を感じる。同じような取組をしている他の地域でも、各家庭で送迎しているとのことだが、何とか市バスで通塾できるような対応は出来ないか。今後、バスの運行も縮小になると想定され、さらに子どもの数も少なくなる。市バスで対応していただければ大変有難い。

伊藤総務企画課長

・温海地域は広いので、市バスを何台も走らせるのは難しい。乗合タクシーなど公共交通を利用してもらうことも解決の一つ。ただし、土曜日運行していない路線について、未来塾のために今すぐ運行することも難しいため、乗合タクシーの運行も含め全体的に考えていきたい。

五十嵐収一会長

若者の移住対策について

・小国集落では、一過性のものだと思うが、令和5年7月頃から今年の4月まで高齢世帯4世帯に7人の若い人が帰ってきた。庁舎市民福祉課で、どのような年齢層が転入（転居）してきたかわかると思う。Uターンなどで転入する若い人たちに現時点でどのような支援があるのか。今後重点事業として拡大していく考えはないか。様々な事情で移住してくるケースがあり、きめ細やかな対応を行うことによって移住者が増えてくると思うので、今後も様々なケースに

合わせた対応策を検討いただきたい。

菅原地域振興課長

・移住には様々な段階があると思う。鶴岡を知る、関わりを作る、鶴岡での暮らし体験から移住へと。鶴岡に定着してもらうために様々な支援を用意している。例えば、県外からの移住者に対し米・味噌・醤油1年分プレゼントや、子育て世代が県外から移住した場合、県の事業で40歳未満の若者世帯に10万円、15歳未満の子ども帯同の場合さらに10万円の支援金給付がある。その他、東京に居住及び通勤していた方が県のマッチングサイトを通して県内の企業に就業した場合、移住支援金として最大100万円支給という支援もある。いずれも要件があるので、移住する前に地域振興課または庁舎総務企画課へ相談いただきたい。

A委員

移住対策について

・ある程度年を取ってから、故郷に帰ってくる方の支援なども考えていただきたい。

菅原地域振興課長

・昨年度、相談窓口を通して移住された方約140名、そのうち半分が仕事関係、約4分の1が子育て世代の方である。仕事関係で来られる方は、職場の近くに住居を置き、車を持っている方は自分が好きなところを優先する傾向がある。自分の生まれたところに戻り暮らしたいと思う人もいる。様々なニーズを把握するとともに、相談窓口で移住支援の情報を提供してまいりたい。

F委員

体育館の整備について

・温海地域に体育館を整備してほしいと市長へ陳情していた。鶴岡第三中学校跡地と大山中学校跡地に体育館整備の要望があり、第1次総合計画には体育館整備の記載があったが、第2次総合計画に記載がなくなった。その後、体育館整備について市の方針など説明がない。学校施設の跡地利用を地域でも考えていくような方策を示していただきたい。また、陳情した内容もその年度内に回答いただきたい。

皆川市長

・市全体の公共施設の整備について、人口減少が進む中、これまでどおり施設の更新・維持をしていくのは難しい。例えば、鶴岡三中学校区の体育館整備は、長年要望をいただいていたが、地域の方々と話し合いをした結果、学区に新たに体育館を整備するのは難しいと判断に至った。ただし、第2コミセン改築時に軽スポーツができるような施設の整備を検討していくこととした。藤島地域では、中学校の改築と合わせ、周辺の公共施設の整備をどうするか考えている。鶴岡朝陽第五小は分散していた学童を合築する整備をした。

・今後、温海地域において、公共施設をどのように更新していくか検討して行

く中で、様々な施設の統合・整備が必要になってくる。また、必要な施設の整備を考えて行く中で、要望されている施設についても、どのようなサイズで機能が必要なのか整理していく必要がある。

F 委員

鶴岡市老人クラブ連合会からの陳情への回答について

・鶴岡市老人クラブ連合会で市長へ4項目ほど陳情した内容について、正式な回答がない。

皆川市長

・陳情の際に様々な意見交換をさせていただいた。担当課へその後の経過を確認し、早々に回答させていただきたい。

(市長コメント)

皆川市長

・温海地域は、意欲的に事業展開している。市でも、これまで情報発信をしてきたつもりだが、これから、専門的な知見を持っている方を入れて積極的に情報発信していく。インスタグラムの活用なども考え、若いひとたちへの情報発信に取り組む。

・ゴミの分別が難しくなっている人もいることを廃棄物対策課にも共有し対策を検討していく。

・地域の方が行う休憩施設（市の施設）の塗り替えに係る材料については、予算を捻出しながら、地域の方々の意欲的な活動を後押ししていく。温海温泉の桜や滞留拠点整備については、現状を把握し計画的に取り組んでいきたい。

・移住定住、交流人口の増加にしっかり取り組んでいく。鶴岡市に移住するとどのようなメリットがあるのか整理しお示しするので、皆さんからも「鶴岡に住むとこんないいことがある」と広めていただきたい。

・奨学金返済支援制度を設け、若い人たちが地元企業に就職した場合、最大200万円返済支援している。現在登録者250人、そのうち60人が鶴岡に帰ってきている。その他、給食費、医療費の無償化など子育て世代の支援もある。

・市全体の子どもの遊び場の充実を図るため、協議会を立ち上げ取り組んでいきたい。